犬田布貝塚

【所　在　地】大島郡伊仙町犬田布 1152
【種　　別】県指定史跡
【指定年月日】平成元年３月 22 日

海岸から約 500m，標高 55m に位置し，隆起珊瑚礁の崖下に出来た貝塚で，岩陰から前庭部にあけて良好な遺物包含層がみられる。

昭和 58（1983）年の発掘調査により，多量の土器，石器，貝製品等が出土した。

土器は，縄文時代晩期に相当する面縄西洞式系統と喜念Ⅰ式との間に位置する犬田布式及び弥生時代以降に相当する宇宿上層ａ式が主なものである。

石器は，磨製石斧，磨石，敲石，凹石，石皿等が出土し，なかでも磨製石斧は多数出土している。

貝器は，貝刃，夜光貝のフタを利用した斧，刺突具，貝鏃，貝さじ等が多数出土しているが，貝刃は，現在，徳之島に生息していない「シレナシジミ」を利用している。

装身具としては，貝輪，イノシシの骨で作ったかんざし，サメ骨製の耳かざり等が出土している。ほかに糞石もみられる。また，徳之島で生息が確認されていないシカの角製垂飾品も出土しており，当時，本土及び他の島々との交流があったことがわかる貴重な資料である。